



实用新案登録願

昭和54年2月9日

(4,000)

特許庁長官 熊 谷 善 二 殿

1. 考案の名称

洗淨用具

2. 考案者

住所 氏名 実用新案登録出願人に同じ

3. 実用新案登録出願人

住所 氏名 兵庫県西宮市甲子園砂田町4番21号
宗田 務

4. 代理人 大阪市西区北堀江1丁目7番3号

住所 550 大阪市西区西堀通1丁目16番地
大花興産ビル2階

氏名 (2858) 弁理士 鈴木 武夫

5. 添附書類の目録

| | | |
|---|-----------------------|------|
| ✓ | (1) (明細書) | 1 通) |
| ✓ | (2) (14面) | 1 通) |
| ✓ | (3) (委任状その他代理権を証する書面) | 1 通) |
| ✓ | (4) (出願審査請求書) | 1 通) |
| ✓ | (5) (願書副本) | 1 通) |
| ✓ | (6) | |

54 016561

115657

明細書

1. 考案の名称

2. 3. 洗浄用具

4. 2. 実用新案登録請求の範囲

5. (1) 中心部に配置した洗剤と、洗剤を包むフィ
6. ルム層と、洗剤およびフィルム層を取り囲む
7. 比較的厚手の外皮層とを備え、前記フィルム
8. 層が小孔および／または間隙を有することに
9. よつて、洗剤を徐々に溶出させることを特徴
10. とする洗浄用具。

11. (2) 前記外皮層にさらにプラスチックネットを
12. 被せることを特徴とする実用新案登録請求の
13. 範囲第1項に記載の洗浄用具。

14. 3. 考案の詳細な説明

15. この考案は、洗剤を内蔵している洗浄用具に
16. 関する。

17. プラスチックスポンジからなる洗浄用具は多
18. 種存在しており、食器、浴槽または便器などを
19. 洗浄するために用いられている。また、洗剤を
20. スポンジにあらかじめ内蔵した洗浄用具も既に

提案され、この洗浄用具は使い勝手においてスポンジ単品のものよりすぐれている。しかしながら、この洗浄用具は使用の際に水中に浸漬すると、スポンジ内に浸入した水が洗剤を溶かしきることが多く、この結果として洗剤が早期になくなつてしまふという欠点があつた。

この考案の目的は、洗剤を包むフィルム層を設けることによつて、洗剤を徐々に溶出させて該洗剤を長持ちさせる洗浄用具を提供することである。また、この考案の他の目的は、プラスチックネットを被せることによつて洗浄効率がよりすぐれた洗浄用具を提供することである。

次にこの考案の実施例を図面に基いて説明する。

第1図はこの考案に係る洗浄用具1を示し、該洗浄用具は一般に洗剤2とフィルム層3と外皮層4とからなる。洗剤2は図面では洗浄用具1の中心に位置しているけれども、用途に応じてその位置を適宜に変更してもよい。洗剤2は石けんを含む界面活性剤であり、用途に応じた

品質のものを使用する。また、洗剤 2 の形状は
1 四形、粉状または粒状のいずれでもよく、適當
2 な溶出量を得るために軟石けんのような練り状
3 のものも好ましい。

4 フィルム層 3 は洗剤 2 を全体的に包んでいる。

5 フィルム層 3 はポリエチレン、ポリプロピレン
6 またはポリ塩化ビニルのようなプラスチックフ
7 イルムからなる。フィルム層 3 は、洗剤 2 を包
8 み込み可能な大きさの板状フィルムを用いても
9 よく、または洗剤 2 を収納した袋状フィルムを
10 用いてもよい。板状フィルムの場合には、単に
11 洗剤 2 を包んでいるだけであるから適宜の間隙
12 を有し、その間隙を通りて水が侵入することにな
13 る。また、袋状フィルムの場合には、フィル
14 ム壁に適宜数の小孔 5 (第4図参照) を設けてい
15 るから、該小孔を通りて水が侵入することにな
16 る。このような小孔は板状フィルムにも設けて、
17 洗剤 2 の溶出量を調整することも可能である。

18 また、袋状フィルムに小孔 5 を設ける際には、
19 該フィルムの全面に小孔 5 (たとえば 10 個) を設

1 けてもよいが、主として片面だけを使用する洗
2 淨用具ではその片面に対応した側にだけ小孔5
3 を設けてもよい。前記のように、小孔5の位置
4 および寸法は用途に応じて調整することになる。

5 比較的厚手の外皮層4は、洗剤2およびフィ
6 ルム層3を全体的に取り囲んでいる。外皮層4
7 は、ウレタンフォームのようなプラスチックま
8 たはゴム製のスポンジ、フェルト状の不織布、
9 またはタオル地のような織布でもよい。外皮層
10 4は板状または筒状のものを使用し、フィルム
11 層3で包んだ洗剤2を収納した後に、板状なら
12 は折り畳んで縫合部6を接着剤で接着するかまたは
13 硬化する。一般に外皮層4としては、厚さ1
14 ~前後のスポンジを使用することが普通である。

15 第2図は、第1図に示す洗浄用具1をさらに
16 プラスチックネット7で全体的に包んだ状態を
17 示す。プラスチックネット7は、押出し成形に
18 よつて筒状に形成したものを裁断するかまたは
19 そのままの状態で用いる。プラスチックネット
20 7は外皮層4に被せ、該外皮層の縫合部の接着ま

たは接着時に同時に固着すると好ましい。この種のプラスチックネット7はその交差点において肉厚になつてゐるから、この洗浄用具で食器などの被洗浄物を摩擦した際に付着物を効果的に除去することができる。

第3図はこの考案の変形例を示し、洗浄用具は洗剤8、フィルム層9および外皮層10からなる。外皮層10は直方体形状のスポンジ体であり、その上面に硬質層11を全体に設置している。硬質層11は硬質フィラメントを絡合した不織布状の材料からなり、接着剤によつて外皮層10上に固着する。硬質層11は汚染のひどい被洗浄物を洗う際に用いる。

この考案の洗浄用具は、他の器具に取付けて使用してもよい。たとえば、この洗浄用具にひもを取付けければ、保存する際に便利であつて紛失することを防止できる。また、棒状の把手を有する器具の一端に取付けると、直接手を触れると不衛生な便器などを洗浄するのに便利である。さらに、ゴムホースを有する器具の一端に

1 取付けると、別個に水を入れたバケツを使用す
2 ることなしに洗浄できるから洗浄作業を容易に
3 行なうことができる。

4 この考案に係る洗浄用具は、食器、洗面所、
5 浴槽または便器などを洗浄する際に、石けんと
6 スポンジというように2種の用具を用いること
7 なしにそれのみで洗浄できる。それ故に、容易
8 に洗浄作業が行なえるとともに、溶出しやすい洗
9 劑をフィルム層で包んでいるから該洗剤が早期
10 になくなることがない。このように洗剤を徐々
11 に溶出させることによつて該洗剤の使用可能期
12 間が長くなり、さらに不必要に多量の洗剤が溶
13 出しないから、この洗浄用具で洗うと後の水洗
14 いなどが容易となる利点がある。

15 4. 図面の簡単な説明

16 第1図はこの考案に係る洗浄用具の横断面図、
17 第2図はプラスチックネットを被せた洗浄用具
18 を示す斜視図、第3図はこの考案の変形例を示
19 す横断面図、第4図は第1図のⅣ部分の拡大断
20 面図である。

1 1 … 洗淨用具、2 … 洗剤、3 … フィルム層、
2 4 … 外皮層、5 … 小孔、7 … プラスチックネッ
3 ト。

4

5

6 出願人 宗 田 務
7 代理人 鈴 木 武 夫
8

9

10

11

12

13



14

15

16

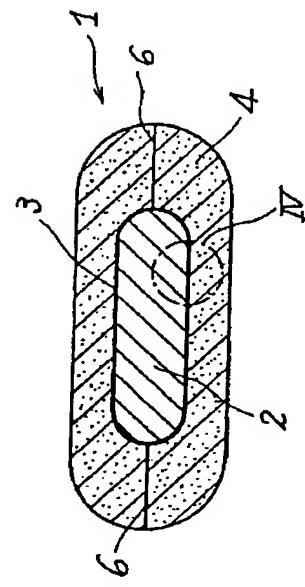
17

18

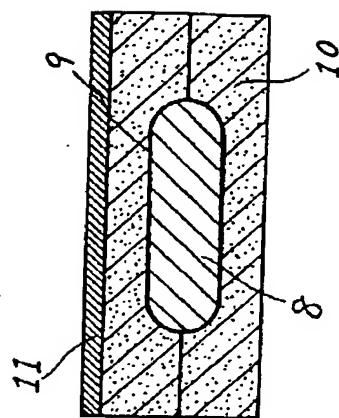
19

20

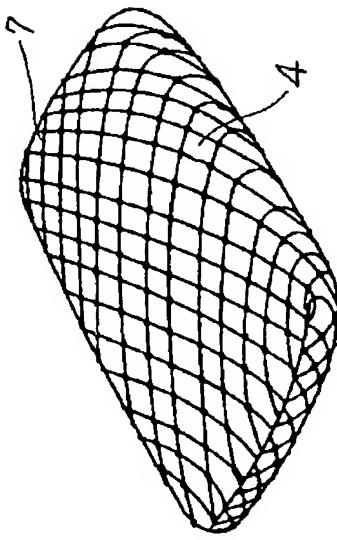
第1図



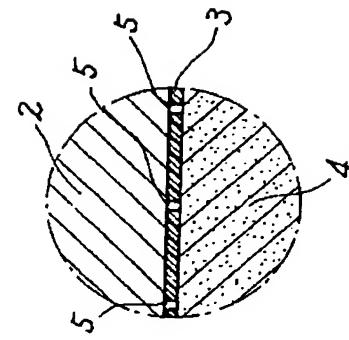
第3図



第2図



第4図



115657

出願人 京田橋
飯木武
代理人